

## 【院長挨拶】

解散総選挙でざわついている上空をミサイルが飛んで行ったり、世の中は穏やかならざるように見えます。今年の夏は日本各地での猛暑や突然の大雨の報道で、「記録的…」というフレーズを何度耳にしたことかと思えます。しかし少し離れて見れば、意外に振り子の振れのようにどこか一点を中心に揺れ動いているだけなのかも知れません。目先の変化の慌ただしさにふとそんなことを考えてみたりもします。

29 年度も 6 か月を過ぎていよいよ下半期に入りました。8 月から放射線科に平川先生、10 月から脳神経外科に竹内先生が新たに加わって頂きました。また 10 月 22 日には台風が接近する中で院内災害訓練を実施しました。忘れたころにやって来る災害に少しでも対応できるように日頃から準備したいものです。一方長年の懸案であった電子カルテの更新に向けての作業が現在進行中で、日常業務の円滑化が期待されます。

さて今年度も病院主催の医療講演会を 11 月 11 日に開催させていただきます。地域の先生方との日頃からの連携をさらに深めていきたいと考えます。ご多用とは思いますがご参加下さいますようお願い致します。

寺柿 政和



## 【院内災害訓練を実施】

10 月 22 日（日）に毎年恒例の院内災害訓練をいたしました。今回はブラインド型の災害時トリアージ診療訓練という設定。

当日は、台風接近という状況もあり短時間の訓練となりましたが、運用機能の確認には十分な実施となりました。



## 【大阪市南部地区医療講演会を実施いたします。】

日時：2017/11/11（土） 17：30 ～ 19：30

場所：天王寺都ホテル 6F 吉野の間

### ■Session I

【座長】 東住吉森本病院 副院長 仲川 浩一郎

『当院における呼吸器内科の取り組みについて』

東住吉森本病院 呼吸器内科 武田 倫子

『原発及び転移性肝臓に対する治療と当院における治療実績』

東住吉森本病院 外科 葛城 邦浩

『地域医療と放射線科』

東住吉森本病院 放射線科 藤本 圭志



### ■Session II

【座長】 東住吉森本病院 副院長 池邊 孝

『在宅緩和医療と救急』

東住吉森本病院 緩和ケア科 大場 一輝

『総合診療 ～臨床研修とのコラボ～』

東住吉森本病院 顧問 大阪市立大学 名誉教授 廣橋 一裕

皆様におかれましてはご清祥のことと存じ上げます。この度、緩和ケア病棟は 10 月 1 日で 4 周年を迎えることができました。これもひとえに、サポートしていただいた皆様のおかげでございます。本当にありがとうございました。

私たちは、この 4 年間を通じて、患者様が笑顔で過ごすために最も大切なことは、そばで付き添っているご家族様が笑顔であることを学びました。そして、ご家族様の笑顔を支えるには、私たち医療者が笑顔で過ごす毎日が大切だということも学びました。そこで、緩和ケア病棟の運営に携わっているスタッフを労うために、病棟のお誕生日会を開催しました。多職種も集まり、バースデーケーキを前にバースデーソングを合唱しました。なんだか童心に帰ったような雰囲気のなか、スタッフの柔和な笑顔を見ることができました。



緩和ケア病棟は、「つらさを和らげる」「希望を支える」「その人らしく生きていくことを支える」この 3 つの柱を大事に患者様そしてご家族のサポートを行っております。今後も、つらさを抱えている方々のために、初心を忘れることなく精進してまいりますので、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

【連載】 インフルエンザの流行シーズンに備えて 感染防止対策室 室長 荻田 千歌

インフルエンザの流行期が近づいてきました。この季節になると、毎年多くの医療施設でインフルエンザの集団感染が報告されています。感染を最小限に抑えるためには、流行前から感染対策を強化して備えることが大切です。

インフルエンザの概要

感染経路	飛沫感染および接触感染により感染する。 ◆飛沫感染：感染者が咳やくしゃみをしたときに発生した飛沫と一緒にウイルスが飛び散り、別のヒトがそのウイルスを口や鼻から直接吸い込み感染する。 ◆接触感染：感染者が咳やくしゃみをしたときに、押さえた手でドアノブやスイッチなど周りの物に触れ、別のヒトがその部位を触りその手を介して口や鼻の粘膜から感染する。
潜伏期間	1～3 日間程度
症状	発熱・頭痛・咳・鼻水・全身倦怠感・筋肉痛・関節痛

この度10月1日より当院脳神経外科の医員として着任しました竹内孝治（たけうち こうじ）と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は平成23年に大阪医科大学を卒業後、同大学で臨床研修医として勤務いたしました。その後、平成25年より同大学や関連病院等で脳神経外科医として診療を行い、今回、東住吉森本病院にて磯野部長と2名体制で勤務させて頂くことになりました。



私の専門分野は、脳腫瘍、脳血管障害等で、これまで開頭手術、脳血管内手術、神経内視鏡手術などの外科手術をはじめ、BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）という先進医療など多くの疾患、症例を診てまいりました。当院では、良性の髄膜腫、下垂体線腫、悪性の転移性脳腫瘍などの脳腫瘍の外科手術も積極的に行っております。そこで本日は、当院の脳腫瘍手術の話させて頂きます。

通常、脳腫瘍の開頭手術では、血管など様々な解剖学的指標を確認しながら病変へ到達するわけですが、脳深部に発生した脳腫瘍や血管奇形は、病変の正確な位置を把握することが、なかなか容易ではありません。そのため術前には、十分な症例検討を行い、術中は、立体像をイメージしつつ病変に到達・摘出する必要があります。このプロセスは、従来非常にアナログな作業でありましたが、当院は手術をアシストするナビゲーション・システムを導入しております。これは、術前に撮影したCT、MRIを3次元的に再構築し病変の位置を立体的に可視化できるシステムです。これを使うことで術中にモニターで病変や周辺構造物を確認しながら効率的に脳深部の病変を摘出することが可能となります。そういう意味では、これまで以上に安全性・正確さを確保し手術ができる環境が整っております。

また中枢神経原発悪性リンパ腫に対する化学療法も実施しております。このように当脳神経外科では脳腫瘍に対して様々な治療選択が取れます。今後は、当科部長・磯野とともに地域の先生方といっそう密な連携を取らせて頂きながら頑張りたいと思います。

脳卒中や頭部外傷などの緊急疾患だけでなく、腫瘍性疾患、水頭症、脊椎疾患、三叉神経痛や顔面痙攣といった機能的脳神経外科などなど、脳神経外科領域の患者様がいらっしゃいましたら当脳神経外科に是非ご相談ください。

## 手術看護分野における認定看護師

当院手術室の看護師・佐藤さんが、手術看護分野における認定看護師試験に合格されました。そもそも認定看護師制度とは、公益社団法人日本看護協会が発足した制度で、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて高い水準の看護実践ができる認定看護師を社会に送り出し、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的としています。

出願資格としては、看護師免許取得後、通算5年以上の実務研修があり、そのうち通算3年以上は特定の看護分野の実務研修があることなど細かい条件が設定されております。佐藤さんは、その手術分野の教育課程において、半年間、学校法人兵庫医科大学医療人育成センターにて学ばれ、本年7月に同分野における認定看護師に認定されました。

急性期病院にとっては、手術室の質の確保は重要な課題であります。是非、学ばれた知識を活用し、活躍していただきたく思います。



医療施設における感染対策のポイント

患者の隔離 (外来)	◆外来でインフルエンザを疑う場合、患者さんにサージカルマスクを装着し、他の患者さんと接触しないよう2m程度離れた場所で待機していただきましょう。 ◆可能な限り優先的に診療を行い、滞在時間が短くなるよう配慮しましょう。
病室 (入院)	◆入院は原則個室とします。 ただし、複数名の患者が発症する場合はコホート隔離(※)も可能です。
マスクの着用	◆呼吸器症状のある患者さんにはマスクを着用していただき、周囲に飛沫が拡散しないようにしましょう。医療従事者も呼吸器症状のある患者さんに接する際はサージカルマスクを着用するようにしましょう。 ◆マスクの着用や手洗いなど患者さんにも協力していただきましょう。 ◆マスクは正しく装着し、マスクの外側には触れないようにしましょう。
手指衛生	◆手指や公共物を介した接触伝播を避けるためには手指衛生が最も重要です。簡便なアルコール性の手指消毒剤を有効に活用し、手指衛生に努めましょう。
環境の清掃	◆頻回に手の触れる箇所はこまめに環境清掃を行いましょう。 ドアノブ・スイッチ・テーブル・床頭台・手すり・パソコンのキーボードなど。
ワクチンの接種	◆重症化のリスクの高い人、医療従事者は積極的にワクチンを接種しましょう。
面会の制限	◆流行期の面会は最小の範囲とし、幼児や高齢者の面会は避けましょう。
注意喚起	◆流行時にはポスターなどを掲示し、咳エチケットの推奨を行いましょう。

※コホート隔離：病原体ごとに行う集団隔離のこと。

咳エチケット

政府広報オンラインより引用  
<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/200909/6.html>

<p>マスクを着用する</p>  <p><b>マスクをする</b> くしゃみや咳が出ている時はマスクを着用し、使用後のマスクは放置せず、ごみ箱に捨てましょう。マスクを着用していても、鼻の部分に隙間があったり、あごの部分が出たりしていると、効果がありません。鼻と口の両方を確実に覆い、正しい方法で着用しましょう。</p> <p><b>&lt;正しいマスクの着用&gt;</b></p>  <p>鼻と口の両方も確実に覆う → 上もひもを頭にかけよう → 下もひもを頭にかけよう</p>	<p>口と鼻を覆う</p>  <p><b>ティッシュやハンカチで口と鼻を覆う</b> 周囲にかからないよう顔をそらせ、ティッシュなどで口と鼻を覆う</p>	<p>すぐに捨てる</p>  <p><b>鼻をかんだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てる</b> 口と鼻を覆ったティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう。</p>
<p>周囲の人からなるべく離れる</p>  <p><b>他の人から顔をそらす</b> くしゃみや咳の飛沫は、1-2メートルも飛ぶと言われています。</p>	<p>こまめに手洗い</p>  <p><b>石けんや手洗剤</b> くしゃみや咳などを押さえた手から、ドアノブなど周囲のものにウイルスを付着させたりしないために、インフルエンザに感染した人もこまめな手洗いを心がけましょう。</p>	

編集後記

広報室 M

先日、修験者の友人に、俗世の垢を取るのにいい機会なので友が島への修行についてこないか？とお誘いを受けました。

去年も行ったし海や山が見れるのでいいかなーと軽い気持ちで参加させていただいたのですが！！なんと今回は、登る泳ぐのトライアスロン並みのハードなプログラムで汗だくでした...、確かに垢は落ちたような気がしました(笑)



**東住吉森本病院 地域医療連携センター**

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ  
 (地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m\_chiiki@tachibana-med.or.jp  
 電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平日 9:00～20:00  
 土曜日 9:00～17:00

地域医療連携センター長 坂上 祐司  
 副センター長 井内 郁代